

令和 2 年 9 月 23 日

< ワンポイント・レッスン（実践） >  
 （ 小型株と大型株の跛行 ）

このところ、東証第一部市場は小型株優位の展開が続いています。先週(9月18日週末)は、大型株 100 銘柄の内、35 銘柄が上昇に対して 65 銘柄が下落。小型株は 1380 銘柄が上昇・値下がり 275 銘柄・変わらず 20 銘柄。そして、小型株の上昇 1380 銘柄の中で 136 銘柄は 10%以上の上昇、投資テーマで共通するものは何か。アフターコロナ時代を先取りする動き知ることが出来るかも知れません。

一般に物色の流れや跛行をみるのは平均株価・指数。日本で代表的なのは東証株価指数と日経平均の比較、日経平均株価が TOPIX よりも優位な時は、値高ハイテクが買われたとか、TOPIX が日経平均よりも優位な高い時は大型株が物色されたなどは、N・T 倍率は良く知られていることです。このサイト M・I（マーケット・インディケーター）では「弾性値」。今回は東証小型株指数と大型株指数。定めた期間において、どの程度の跛行が生じているかを算出、25 日比較と 75 日比較。25 日比較に注目、下記グラフをご覧ください。

	(東証第一部市場、規模別変化率)			(銘柄)		
	上昇	(内10%以上上昇)	下落	(内10%以上下落)	変わらず	
大型株	35	1	65	0	0	
中型株	225	5	164	0	7	
小型株	1380	136	275	6	20	
合計	1640	142	504	6	27	

小型株：10%以上上昇136銘柄の内、7銘柄が20%以上上昇

(小型株指数と大型株指数の相対比較)



All Copyright © ゴールデン・チャート社

注：上記グラフ下段の赤色折れ線グラフは 25 日、青色は同 75 日弾性値。